



創立100周年を迎えて

校長
山崎 憲一
YAMAZAKI kenichi

伊丹市立伊丹高等学校は明治40年に設立された伊丹町立裁縫学校を前身とし、平成19年の今年創立100周年という輝かしい年を迎えました。

本校の発展にご尽力を賜りました歴代の校長をはじめ教職員の方々、PTAや同窓会、ならびに伊丹市、伊丹市教育委員会等関係各位、地域の皆様方に心から感謝を申し上げます。

本校は現存する兵庫県の市立高等学校としては神戸市立神港高等学校とともに一番長い歴史を持ちます。創立から昭和23年の学制改革までは校名や所在地を数回変えながらも「質実剛健」の校訓の下、徳育や情操教育も重視する女子の実学教育を行う学校として2,041名（別に補習科、研究科は1,469名）の卒業生を社会に送り出しました。

昭和23年に男女共学の新制高等学校として校名は伊丹市立高等学校へ、昭和42年定時制独立校化に伴い伊丹市立伊丹高等学校に変わりました。しかし、実学重視の校風は商業科やグローバル・コミュニケーション（GC）コースへ、質実剛健の校訓は現在の校訓や教育目標に連綿として継がれています。昭和23年以来1万9,500名の卒業生が社会へ巣立ちました。

日本では昨年12月に改正教育基本法が成立したことに代表される教育変革の大波が押し寄せています。兵庫県に於いても平成16年から高校の統廃合、学校の特色化等を内容とする高校教育改革が実施されています。また、複数志願制を含む新しい入試制度の導入も進んでいます。

この様な状況の中で本校も「ワンランクアップの学校づくり」を目指して変革に取り組んでいます。7時間授業の導入、教育課程のスリム化、GCコースの「特進」化、土曜日補習の導入による進学支援・商業検定1級取得支援、高大連携のより一層の推進、体験入部制による部活動の活性化、制服の制定等を変革の内容としています。伊丹市教育委員会も教職員の資質向上について予算化し支援を表明していただいています。

時代の発展と変化する社会に主体的に対応できる人材、平和な社会を作り出す資質を持った心身ともに健康で個性豊かな人材の育成が本校の使命、責務であることを自覚し、本校の伝統を踏まえながら更なる飛躍を目指して改革に取り組んでまいります。

最後になりましたが、この記念誌の編集にあたり大変お忙しい中であって原稿や貴重な資料をお寄せくださいました方々、ならびに編集委員の皆様にご感謝の意を表します。